



朝起きたら、私はまずご主人様の足の裏にキスをします。

そしてご主人様が目覚めぬうちに朝食を作り、裸エプロンのままご主人様のベッドの脇。床の上で正座をしたまま、彼が起きるのを待ちます。

夫は、――少し可哀想だけでも――起きたらまず、自分で自分に浣腸をしているようです。これは私の指示ではありません。

ご主人様の指示です。

夫はトイレの使用を禁じられていますので、近所の公園まで毎朝、浣腸をしたままのお腹で走っているようです。

もちろん、衣服は与えられていません。

貞操帯と首輪だけで、誰にも見られないよう走っているようです。

そういう事を考えると、夫は可哀想だと思います。だから幸せです。

この論理がお分かりいただけでしょうか？

夫は誰もが起きぬ早い時間帯に、自らに浣腸をして、裸同然で公園に走るのです。少しだけ可哀想だと思います。

だから私は幸せなのです。

ご主人様が目覚めると、私はその場で土下座をします。

もちろん裸エプロンのままで、です。

ご主人様は眠気眼を擦りながら私に、

「脱いで」

と命令してくださいます。

私は頭を床に付けたまま、

「おはようございます。ご主人様。

今日も御検査宜しくお願いいたします」

と言ってからエプロンを脱ぎます。

そしてアメリカ映画の逮捕された犯人のように、頭の上で両手を組んで立ちます。両手の場所が違うだけで後は、いわゆる『気をつけ』の状態です。

まずはオマ○コ。

私は陰毛を生やすことを禁じられています。一本毛が生えていたら、尻叩き10発です。

ですから完全に、綺麗に剃り上げなければなりません。

永久脱毛すれば済むことのなのですが、それはご主人様が許しては下さいません。

「毎日、緊張感を持って剃ることで忠誠心が深まる」

との配慮があつてのことだそうです。

ですから、必死です。

私は元々毛深いタチなのですが…。

オマ○コの検査が終わると、ご主人様は人差し指をくると回します。

私に『振り返って尻を突き出せ』と指示をされておいでなのです。

もちろん指示どおりに致します。

振り返ってご主人様の前にお尻を差し出し、頭を深く下げます。

額に足首が付くまでです。

体育教師という職業柄、身体は柔らかいです。

ご主人様は無言で私の両の尻肉を鷲掴みにして、ア○ルがよく見えるように開かれます。ここも毛が生えていないかのチェックのためです。

マ○コ同様に毛が一本生えているごとに、尻叩き10発です。

ア○ルも必死で毛を剃っています。

私が陰毛を生やすことが許されない理由ですか？

無毛は幼稚の証明です。

私の精神は幼稚で、ご主人様の存在無くして女足り得ません。

精神に見合った肉体にするために、私は子供のように毛を生やさぬようにしているので

す。

ああ。

今日は、ア○ルに剃り残しがあつたようです。

ご主人様は無言で携帯を取り出し、私のア○ルを撮り始めました。

フラッシュ付きです。

7回、8回。

フラッシュが焚かれました。

最近の携帯は画像を画素数が多く、サイズも大きいまま撮影できるので余計に恥ずかしいです。

「…次」

ご主人様はそう言ってから、ため息を一つ。

私はご主人様のその溜息に震えました。

反省しなければなりません。

お仕置きを覚悟するよりも、ご主人様を落胆させたことを悔いる方が優先度が上なので
す。

私は、「はい。かしこまりました」とだけ返事をしました。

そして巻尺、…メジャーですね。

それから体重計を持ってご主人様の前に立ちます。

そして体重計に乗り、ご主人様の前で再度頭の上で両手を組みます。
体重と3サイズを測って頂くためです。

体重は許容範囲、プラスマイナス500グラムまで。

3サイズはマイナス厳禁です。

厳しい肉体管理をいただかないと、スポーツ少女だった私はすぐに太ってしまうのです。
そのことをご主人様は、大変に嫌がります。

体重が許容範囲を超えたり、3サイズにしほみが出たら尻叩きです。
以前体重が1キロ増えた時は、500回の尻叩きを受けました。

メトロノームというものをご存知でしょうか？

リズムを正確に刻む、振り子状の道具です。

あのメトロノームと同じ構造の大きな振り子の先に、鞭を取り付けることのできる尻叩
きマシーンをボーナス全額はたいて、購入しました。

これで私は私の尻を自ら叩き、罰を受けるのです。

正確なタイミングで、淡々と…。

容赦なく…。

ただひたすらに…、

尻を鞭で叩かれるのです。

とても、とても辛いです。

初めての尻叩きの時、ご主人様は泣きながら許しを乞う私の横で、旅行雑誌を読んでお
いででした。

私は自分が悪いのだから、許してもらおうなどという考えを持ったことを大変に恥じた

ものです。

それにこの尻叩きマシーンで購入してよかったと思います。

ご主人様の負担を減らすことが出来るのですから。

これは本当に幸せなことだと思います。

「体重は問題なし。3サイズも、…まあ多少むくんではいるけど…、良しとしよう」

「ありがとうございます。ご主人様」

「ご主人様の測定が終わると私は、彼の足元に額を付けて再度土下座です。

「本日も、誠心誠意ご奉仕いたします。
どうぞよろしくお願いいたします」

「うん。ああ、そうそう。これ」

「ご主人様が私にお渡しになったのは彼の携帯です。

「今、撮った画像全部印刷して。カラーでね」

「は…はい。かしこまりました」

「ご主人様はそういうと、寝室からリビングに移動されました。

私は彼の後ろを追います。

彼の耽美なお尻よりも頭が上にならぬよう気をつけながら四つん這いで。

そしてご主人様に配膳をさせて頂き、食事をなさっている間にパソコンからご主人様の撮影された私の尻のアップの画像を印刷します。

もちろん最高の解像度で。

コピー用紙のような紙ではなく、写真用の紙。

それもA4サイズで、大きく。

印刷はすぐに終わります。

お食事中のご主人様にそれをお渡しすると、

「何本毛が残っているか、数えてご覧」
と言われました。

あたしは、震えながらご主人様の足元に正座して、数えます。

1、2、3、4……。

「ん。全部で何本だった？」

「あ…あの……。ぜ、全部で6本かと……」

「そ、それじゃあ、今日は60発だね。さつさと、尻叩きマシンにセットしてきたら？早くしないと遅刻しちゃうよ？」

「は…はい。かしこまりました……」

ご主人様のお食事が終わるまでに尻叩きの罰を済まさなければならぬ私は、振り子の速度を最高速に上げ、一気に尻叩き60回を消化しなければなりません。

でないと、ご主人様の朝の身支度をお手伝いできないのです。

それはとてもとても、さびしいことです。

せっかく一緒に暮らしていただいているというのに……。

鞭はイギリス製の木で出来たケインと呼ばれる鞭。

木で出来ていますが、籐のようにしなる上に細くて硬いので、叩かれると大変に痛いものです。

あるいは、ドイツ製の一本鞭。

さすがナチスを生んだドイツとも言いましょうか。

皮の編みこみが細かく、痛みが後を引くように出来ています。

今日はケインにしました。

先日、一本鞭でご主人様に鞭を頂いたばかりだからです。

ケインの先が私のお尻に当たるようにセットして、私は床に四つん這いになります。

頬は床につけ、お尻は頭よりも高く。

涙がご主人様に見えるように顔はご主人様の方を向けます。

そして、

「ご主人様無しでは生きて行けぬマゾメスがケツ毛を剃りましたっ！

罰として尻叩きっ！ 60回を頂きますっ！」

そう叫ぶように自らに宣告して、尻叩きマシンのリモコンのスイッチを入れます。

尻叩きマシーンは最速でも、1秒間に1回。よって、50秒ほどケインで尻をしこたま叩かれ、私はよだれを垂らしてしまいました。口からだけでなく、マ〇コからもです。

よだれを垂らした、はしたないままでご主人様の食器を片付け終えたら…。

赤く腫れ上がり、ブザマに涙を垂らしたままご主人様のお着替えを手伝わせて頂きます。今日もご主人様の学生服は、お綺麗です。

クリーニングに出して、最高級のコースで洗ってもらいましたから。

もちろんお金は私が全額負担。

ご主人様が華麗に着こなす姿は、いつ見ても至福です。

ご主人様は朝の準備が終わると、私達夫婦に下着をお貸し下さいます。

無論奴隷用の…、

貧相で…、

ブザマで…、

とても人様には見せられない下着です。

私達夫婦はモノの所有を禁じられておりますので、出勤するにもご主人様に衣服をお貸しいただかなければならないのです。

私は女兒用のうさちゃんパンツ。夫は白ブリーフです。

両方ともお尻のところに『マゾ注意』と大きく刺繍されているものです。

このタイミングでようやく、夫は家に上がることが許されます。

私のご主人様の着替えをお手伝いさせていただいている間も。

私が尻叩きの罰を受けている間も。

私のご主人様に給仕をさせていただいている間も。

私のご主人様に全裸で検査をしていただいている間も。

そして、…私とご主人様がひとつのベッドで寝ている間も。

夫は公園で浣腸ウンチをひり出した後、玄関先で貞操帯に首輪という格好で正座したまままづーっと家にあげてもらえず、ただ黙って待つのです。

この家、というかこのマンションは各部屋ごとにオートロックが敷かれています。つまり出るのは自由ですが、中には入るのは鍵が必要だということです。

夫はその鍵を持っています。

だから早朝に公園に出て行ったら、それっきり入れないのです。

つまり夫は朝、私とご主人様が何をしているのか知りません。

私が尻叩きの罰を受けて、泣き喚いている声ぐらいは聞こえているでしょうが…。

私は夫の衣装をベランダに投げ捨てます。

そこが夫の居場所だからです。

夫に部屋は与えられていません。

冬は風が吹きすさみ、夏は熱帯地獄となるベランダが夫の寢床であり、居場所です。だから夫にはそこで着替えさせるようにしています。

私ですか？

もちろん夫に裸や下着を見せぬよう、夫を家に上げる前に服を着させて頂きます。

そしてご主人様の逞しきオチ○ポをしゃぶりながら、2人でベランダの外で服を着る夫を眺めるのです。

どうしてブザマな男って、服を着るだけであんなにも貧相で情けない姿に見えるのでしょうかね。

そんなコトを思いながら。

寝取られの告白

男にはその価値に見合った待遇が合って然るべきだと思います。そしてその待遇を実行してあげる事が女の責務と思っています。

それはつまり…。

仕事中、ご主人様に呼び出されて…。

男子トイレの個室で…。

排泄後のご主人様のア〇ルを舐めさせていただくことも責務なのです。

ご主人様にはマゾメスのすべての人権を蹂躪し…。

すべての意志を剥奪し…。

すべての拒否反応を叱る権利があると思います。

それがご主人様に見合う待遇。

夫にももちろん見合った待遇がありますよ。

夫の貞操帯はオシッコの穴がありません。

つまり鍵がかかっている限り、どんなに頑張っても中に残るんです。

オシッコが。

当然貞操帯は週に一度洗う時以外は外させません。

よって、とてもオシッコ臭く匂います。

きつと会社でも、そういう噂になっているのでしよう。

とても良いことだと思えます。

………？

もしかして私はまだお話していなかったでしょうか？

ご主人様と私と夫の社会的立場やパーソナルデータを。

失礼しました。

ではこのまま、頭をご主人様に驚掴みにされ、ご主人様のお尻に顔を無理やり強引に押し込められたままでお話し致します。

まずはご主人様です。

お名前は、岸田一樹（きしだ いつき）様。

とても線が細く、儂げな雰囲気を持っておいでです。

顔が美しく髪が少し長いこともあって、初めてお会いになる方は大抵女性か男性かで迷うようです。

正直に言いますね。

私は夫に「男は顔じゃない」とそう言ってきました。

でもそれは間違いでした。

だって…。

ご主人様と夫を比べたら、ご主人様のほうが顔が綺麗でいらしたから。今なら断言出来ます。

男は顔です。

顔で女は奉仕をするか、蹂躪するか決めるんです。

私はそうします。

みんなそうしてます。

ご主人様は私のクラスの生徒さんでもあります。

つまり私は、教師です。

あ、大丈夫ですか？

もう話題は私に移っていますよ。

私の専門は体育。

悲しいことに女子の体育をみているので、ご主人様の担当ではありません。今年から副担任を任せてもらえるようになったばかりの、ヒヨッコです。

最後は、夫。

特に可もなく不可もない普通のサラリーマンです。

なんというか見た目は普通です。

ご主人様と違って、本当に普通なんです。

特に何ありません。

あえて言うなら引き立て役ですね。

ご主人様を引き立てるためだけの存在です。

昔は愛していましたよ。

今？

聞きたいですか？

もちろん愛していません。

だって、素敵じゃないから。

でも彼は違うみたい。